

## 環境制御による切り花類の開花調節

### 野菜花き試験場

長野県は、立地環境を活かし、夏秋期を中心とした切り花産地として、現在も多種多様な品目が生産されています。そのうち、カーネーションとトルコギキョウは、本県が国内トップシェアを誇っていますが、近年の気候変動が生育開花に顕著に影響し、開花期の変動や品質の不安定化が生じています。

そこで、燃油高騰対策として導入が進んだヒートポンプ（効率よく熱を汲み上げる省エネルギー技術）を活用した、環境制御による開花調節技術の開発を目指しています。

カーネーションでは、作型全体の生産性を落とすことなく、夏秋期に開花する二番花の品質を向上させる日没後（EOD:End-of-day）短時間変温管理技術の開発に取り組んでいます。二番花の品質向上に向け、EOD 冷房技術を検討していますが、品質向上の代償として到花日数が長くなるため、このままでは切り花本数の減少を招いてしまいます。そこで、二番花の到花日数増分をカバーする、一番花の生育を促進させる定植後の EOD 加温技術についても検討しています。

トルコギキョウでは、抑制作型の計画出荷を実現する、定植後の温度管理技術の開発に取り組んでいます。定植後、一定の発達量に到達すると開花に至るという仮説に基づき、日平均気温管理による日あたりの発達量を制御する技術を検討しています。さらに、10～11月期の切り花品質の安定化に向け、定植後の EOD 冷房技術についても検討しています。

これらヒートポンプを活かした省エネ型環境制御による開花調節技術の開発により、本県産のカーネーション及びトルコギキョウの一層のブランド強化に繋がることを期待されます。



供試ヒートポンプ  
(COP3.67、5馬力)



トルコギキョウ  
試験ほ場



温度計測の適正化  
(強制通風筒利用)

担当者	宮本 賢二	電話番号	0263-52-1148
-----	-------	------	--------------

[試験場ニュースへ](#)